

## 選択するという事

先日、池上学院高等学校からご案内を頂き、入学式に出席しました。

池上学院高等学校は、ご存知の方も多いと思いますが、札幌市内にある単位制の通信制高校で、毎日通学して学ぶ総合コースと通信教育で学ぶ一般コースがあります。入学式はコースごとに分かれて行っており、私は総合コースの入学式に出席したのですが、生徒の皆さんからは、緊張の中にもこれから高校生活が始まるという期待や頑張ろうという思いが伝わってきて、胸が熱くなりました。

池上学院の門を叩く子ども達の多くは、それまでの学校生活を通じて、友達関係や自身の健康、更には学校との関係等に悩みや苦しみを抱えています。その悩みや苦しきは、子ども達一人ひとり違うはずですが、いずれの子ども達も学校生活に行き詰まりを感じ、挫折を経験し、希望を持たずに苦しんで来たのではないかと感じています。

それでも、彼らは、高校生としての学びの道を進みたいと思い、そのために行動を起こしたことを、彼らのために喜びたいと思います。

中学生が高校進学を選択する場合、公立高校にするか私立高校にするか。また、普通科にするか職業科にするか、あるいは、中高一貫校にするか、総合学科の高校や単位制の高校にするか。更には、全日制にするか定時制・通信制にするか等、実に沢山の選択肢があります。

人間の一生は、選択し続ける一生ともいえますが、高校を選択するという事は、長い人生の中での最初の本格的な選択の作業といえるでしょう。

選択には、積極的選択と消極的選択があります。積極的選択は、選択した結果に自信と確信を持っており、仮に選択の結果がうまくいかなくても誰かのせいにしたりはしないでしょう。一方、消極的選択をした場合は、そうした選択そのものに意義を見出せず、折角の貴重な時間を無駄に浪費してしまうことになりかねません。また、そういう選択をせざるを得ない自分が許せず、自己嫌悪に陥ったり、自分の本意ではない選択を強いる周りに対して攻撃的になったりする場合もあります。

従って、途中経過はあれもダメ、これもダメで、結局残ったものはこれということかもしれないけれど、最後は「仕方なく」ということではなく、自分自身が納得して、能動的に選択することが必要であり、周りの人たちも、そうした動機付けに繋がるような様々な支援をしていく必要があります。

私たちは、あらゆるところで選択の場面に晒されており、そこから逃げられる人はいません。

勿論、選択するためには、それなりの選択肢が用意されていなければなりませんし、選択肢についての情報も十分提供される必要があります。そうしなければ、フェアな選択が出来ませんが、ただ、現実には、必ずしもそうっておらず、厳しい状況の中で、無理にでも選択せざるを得ない場面もあるはずですよ。

それでも私たちは、何かを選ばなければなりません。仮に、選択の場面から逃げたとしても、それは結果として「逃げる選択」をしているに過ぎません。結論を先送りしようとしている人は、「結論を先送りする選択」をしようとしていると考えるべきです。

幼い子ども達は親が守ってくれますから、選択という厳しい風に当たらなくても済みますが、ある年齢（個人差はありますが）を超えたら、自分で考え自分で選択できる力を身に付けなければなりません。その力こそ「生きる力」だと思います。

池上学院高等学校に入学した生徒達の、選択にいたるプロセスは分かりませんが、様々な選択肢の中から、自分にとって相応しいと思う道を見つけ、選んだのだと思います。少なくとも、彼らにとって学び続けたいという欲求を満たせる場所が池上学院にあったということであり、生徒の皆さんにとってこれからの3年間は、意義ある3年間となるよう祈って止みません。

（塾頭 吉田 洋一）